

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

おはようございます。今回4月に行われました市議員選挙におきましては、888名の支持を得まして何とか2期目の市議員となることになったわけでございます。今後4年間、888名の皆さん方の先頭に立って、あるいはまた、これまでどおり子どもやお年寄り、そして、社会的弱者と言われる方たちの先頭に立って、さらには一握りの人間がごね得しないような、決してごね得させないような市政を、本当にまじめな人たちがばかを見ないような武雄市をつくるため、微力でございますけれども、精いっぱいがんばりたいと思います。よろしく願いいたします。

私は6件について質問をいたしております。

まず最初は、公共事業と地元要望についてでございます。

これは公共事業、特に国や県の事業に対して地元要望がどのように反映されているか、また、それに対して武雄市としてどのように対応しているか、関与しているかという質問をしていきたいと思っております。

2つ目の質問は、自治体クラウドについてでございます。

先日、総務省は都道府県のCIOを寄せてコスト削減を打ち出しておりますけれども、武雄市の情報化の経費削減についてどのように対応したらいいのか、私なりの提言をしてみたいと思っております。

次に、廃棄物処理に対する市の対応についてでございますけれども、これはごみ処理についてでございます。

先ほど上野議員のほうから排出する側からの質問がございましたので、それに呼応して、それを処理する、そういう立場から今日進めておられます佐賀県西部広域環境組合では焼却炉の方式をセメント資源化方式、トータルコスト183億円に決定されようとしておりますけれども、このシステムは大変なリスクがあり、見直すべきだ、そういう主張を交えて質問をしてみたいと思っております。

次に、老人福祉についてでございますけれども、これは老人福祉と書いていますが、先日、あるお年寄りの方とお話ししていたわけでございますけれども、その方がおっしゃるには、うちの老人会長さんはもう10年以上、いや、もっと長く会長ばしてもらいよっぱってんが、武雄市からは何らやっぱり感謝状一枚も来んのだろうかという話なんですね。ぜひともお年寄りの会合も私何回か行ったことあるんですけども、例えば、医療費抑制、健康についていろんなことをやっぱり勉強されているんですね。こういうところに対してはやはり感謝状の一つ、そういうことをぜひとも出してあげたら周りの人も喜ぶんじゃないかと思っておりますので、そういうふうな気持ちで質問をいたしたいと思っております。

あと1つは、予防注射への助成ができないかという方向で質問をしてみたいと思っております。

次に、都市計画についてでございますけれども、今日、北方町では都市計画を進めておりますけれども、今後どのような形になったらいいのか、意見を交えながら質問をしてみたいと思います。

最後に、公報活動についてでございます。

これまで市民の皆さん方から病院問題などはなかなかわかりにくい、そういう話がありましたので、この一般質問の席で市長に対して何回となし、もっともっと詳しい情報を公報で出してほしい、何回も言い続けてきたところでございます。

そして、市民の皆さん方に詳しい内容を知ってもらえるようにすべきじゃないかと言っていましたけれども、残念ながら今回病院問題で住民訴訟が起こされ、弁護士費用として1億2,000万円、それも市民の税金と話を聞くとき、これまでの私たちが議会で論議し、議決したのは何だったのか、議論は何だったのか、議会の重みはどういうところにあるのか、そういう気持ちでどうしても納得できませんので、そういう気持ちで質問をいたしたいと思えます。

それでは最初の質問に入りますけれども、まず最初は、公共事業と地元要望についてでございます。

これは川添川の改修についてでございます。

去る4月23日に北方の松田区長さん、馬神の梶原区長さん、東宮裾の川内区長さん、そして、西宮裾の後川区長さんから武雄土木事務所の所長さんあてに要望書が出されております。それによりますと、当局におかれましては日ごろより土木行政に関し格別の御配慮をいただき、心より感謝しております。川添川を有する当大崎地区は、水害常襲地であり、平成21年7月26日——昨年ですね——集中豪雨の際にも、川添川からの溢水により市道旧国道線の一部が冠水状態をもたらしたところであります。その原因といたしましては、国道34号線にかかる橋梁高が狭小——つまり、低くて狭いんですね——ために、川添川への一気の流れ込みに対応できない状況であります。つきましては、地域住民の安心・安全を図るため、橋梁の改善を早急に実施していただくよう要望するものであります。こういう要望書が出されておりますけれども、ここは御承知のとおり、予算枠が確保されているところなんです。それでもなおかつ、地元の要望、こういうことが出るということに対して市長はどのように思われるのか、まずもって答弁を求めたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

川添川の冠水の話につきましては、黒岩議員と選挙戦のときに地元で説明会に行った折に切々と周辺の住民の何人かの方からお聞きをしました。これについて私としては後で事務方に確認をいたしましたけれども、予算の確保もなされている、枠があるといった中で、何で

これができないんだろうということについて、それは1つは行政の、私ども市行政の不作為があったのではないかというふうに認識をせざるを得ません。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

今、市長は素直に認められましたけれども、実はこの川添川に対する住民の気持ちというのは、やっぱり多大なものがあるわけですね。北方町で一番大きいのは六角川かもしれませんが、それに次ぐ大きな川なんですね。

それで、実はこの川をつくる時、私も用地交渉には昔関与したわけですが、当時、北方石油さんであったんですね。商売されていた。しかし、その土地がどうしても必要だということで、実は私も稗田さんはよく知り合いましたので、お話をして、何とか北方町民のためやっけんが譲ってくれんやという話を譲っていただいたという経緯があるんですね。しかし、長い間、それが解消ができない。そして今度、仕事が国道34号線の問題なんですね、国道34号線と川添川のところがなかなかできない。それは34号線の迂回路がなかなかできないという話ですね。地元とのトラブルいろいろあります。こういうときですけれども、まず場所をですね、どういうところかということの説明いたします。

（パネルを示す）これは私がよく使う北方町の私なりの将来図ですね。これが高速自動車道ですね。これは武雄バイパスで、この分が国道34号線ということで用地買収して、今回2車線を市長さんのおかげで何とか開通をできるんじゃないかというふうな状態なんですね。ここから上りましたですね、ここちょっと見える、これが馬神から来たんですね。これが丁后川で、これが川添川なんです。このところなんですね。

次、航空写真がありますので、次のページをお願いします。

つまり、ここが馬神から来た道路があって、これが大崎停留所、これが国道34号線ですね。これ上から来たのが馬神川ですよ。左から来たのが、これが川添川ですね。これは宮裾のほうから来ております。真ん中に遊水池がございまして、ここから国道34号線を交差して下に落ちていくんですね。逆に下のほうから見ますとわかりますように、幅広いですね、途中まで。これを、次の写真撮っていますけれども、今下から見たところですね、次の写真、よかですか。

これは9メートル幅があるんですよ。しかし、その上が改良していないため、この橋の幅は4メートルしかない。明らかに上が2つの川が来て、下が広い、ちょうど34号線のところだけで今支えととつですね。なおかつ、これにもう1つ問題があるのは、その上流ですけれども、上流に井堰が1つあるんですね。このために1メートルぐらい落差ができるということで、このことについては今回何とか解決したんですね。だから、今回一気に34号線につい

ても解決する予定が、なかなかできなかつたという場所なんですね。

次お願いしますね。

これは一番雨がひどかったときのですけれども、この大水しとっですよね。道路の左側のほうをちょっと見てください。左側のほうにあずがたまっついでしょう。これが冠水した状態なんですね。水につかった、その跡形なんですよ。そして、ここに井堰があつて落差がありますけれども、その先に小さく見える橋げた、ここで必ずひっかかるとは目に見えとっです。大雨が降れば、これがどこまで続くかといいますと、約500メートル上。

次お願いします。

500メートル上の大崎保育園なんです、右側が。大崎保育園のところに車が渡っている、これが川添川ですね。ちょうど橋のところ。右のほうから、よく見たらわかると思いますけど、これは水が入ってきておるですね。これが旧国道ずっとつかつていくわけです。だから、どういう状態かといいますと、川添川があつて旧国道は低いものですから、川添川が満水すれば、旧国道からすべて川添川に入っている水路から逆流するわけですよ。それは今度市長も聞かれたかわかりませんが、ちょっと雨降つぎ、うちの家はすぐ床下浸水するという話なんですね。だから、何としてもこれを解決せにゃいかんわけですね。だから、市長にお願いは、確かに北方支所の支所長さんも頑張つたと思います。しかし、何といつてもトップですよ。やっぱりトップが行つてひぎを交えると、そういう姿勢が必要だと思つてますが、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かにさきの選挙戦のときに川添川の周辺全部1軒ずつ残らず公職選挙法の瀬踏み活動を行つていたときに、いや、市長さん言つてくださいという声の幾つもありました。ですので、やはりトップの役割というのは、あんまりやるとまたワンマンと言われても、とにかく住民の生命、財産の安全・安心を確保するために、やはり一番先に動かなければいけないということを思つておりますので、ぜひ地元の方となかはずく地権者の皆さんたちとひぎを交えて私たちの思い、地区の思いというのを、私、市を代表する立場でもありますので、しっかり話をしたい。そして、御理解を得るような努力をしたいと、このように決意をしております。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

だから、今後、都市計画を進める、あるいは一括交付金、そういう中ではやはり予算は来るけど、仕事は武雄市でやつていくようになるわけですよ、どうしても。だから、今回、

県の仕事ですので、県のほうからしょっちゅう交渉に来よったという話ですね。しかし、なかなか地元と県というたら少し遠うございますので、そこはなかなか雪解けができなかったんじゃないかと思うんですね。そういうことで、この道はなかなか今までできてこなかったと。しかし、何とかしなければならぬということで、ぜひともこういう問題に対しては、いつもじゃなくていいと思うんですよ。ここというときにはやっぱり出向くという姿勢こそ必要だと思うんですね。やっぱりですね、支所長さんをいろいろ言うわけじゃないですけども、何かのときはトップですよ。何かのときはおやじとも言いますけどね。そして、一つの大きなネックがあったときはそれを解決すればできるわけですから。今後ですね。ぜひそういう姿勢をお願いしたいと思います。

次に、国道34号線バイパスに移りますけれども、このバイパスも今の川添川の改修ができない場合は迂回路になり得るわけですね、市長さんね。そういう関連もあるわけですね。バイパスをなかなか迂回路ができなかったと、34号線の橋をつくる時。しかし、今度34号線バイパスができれば、これが1つの迂回路、そうすれば迂回路も小さくつくっていいようになるわけですね。そういう兼ね合いを持ちますので、ぜひともこの国道34号線のバイパス成功させたいと思うんですよ。それで今回、このバイパスというのは、片側1車線ですね、そして南側だけを新橋高野線ですね、今土地買収してあるところを2車線で開通するという考えなんです。それで地元協議に入っていくと思いますけれども、今回大きく変わってくるのがですね、市長さんね。久津具は今まで水問題でしなければならなかった。北方は道路問題だったですね、これが逆転するんです。つまり、あそこに道路をつくることによって北方の人は水はどうなるやろうかと心配する。逆に久津具の人は、今既存の道路を横断しますので、じゃあ、道路がどうなっていくのか、ということが交差するということをまず頭に入れてほしいと思います。

これは紛れもなく昨年1月ですね、市長さんと一緒に古賀誠代議士のところに連れて行っていただいて6億円つけていただいた。その今の恩恵ですよ。しかし、あくまでこの6億円はほんの一部であって、先まで考えれば、30億円か40億円はかかるだろうという話ですけども、道路についてですね、久津具のほうからの道路についてまず質問をしたいと思います。

今計画されているのは武雄バイパスから来て、実際今、武雄バイパスから来て、手前で曲がって34号線におりよっですね。これは完成図の、大体4車線の予想イメージ図ですから、設計図ではございませんので、間違いないようにですね。これは完成イメージです、4車線のですね。4車線になったらこうなるだろうというイメージですね。武雄から来たのが現在は34号線におりている。ここをおりらずに、真っすぐ今言った高野線まで行くんですね、道路が。そのときに問題になるのが、今大崎停留所のほうから入っている九羽見線、久津具に行っている主要道路ですよ。これは左のほうにあります。これは多分——多分じゃなくて平

面交差ですね。しかし、ここにはどうしても信号機はつくと思うんですね、将来。一番問題になるのは、市道中道線なんですよ、右側のほうにあってしょう。市道中道線についているんな問題があるんですね。

つまり、これは大きく見ますと、佐賀から来たとき、今の通りですよ、佐賀から来たときに高速に乗るために高速を通り越して、バイパスを回って高速に乗っていくんですね。この道路をつくらにゃいかん。そして、今度は高速からおりてバイパスに乗るために、今武雄方面にはバイパスありますからね、その迂回路はですね。今度新しくつくれば、高速からおりてきた取り付け道路もつけにゃいかんですね。現在の道路がある、取り付け道路がある、今度新しい道路をつける。つまり、中道線の先に道路がラッシュするんですよ。だから、この道路が将来どうなるかというのは一番大きな問題なんですね。

1つは、下を潜らせる。高さがとれないんですよ、ここは。高速はもう決まっていますからですね。高速が決まっておって、バイパスは今2.6メートルで上がっている。この高さだからとれない。本来、一緒にですね、一緒に話をすれば高速道路の高さを上げればよかったですね。しかし、平成元年に分離しました、分離されましたので、このあれじゃできなかった。だから、高速道路だから低いんですよ。低いために道路ができないという状況がある、20年前の話。一緒にしていれば、このバイパスをつくれば中道線が通られないようになるから、もっと高速道路の高さを上げればいいという話になる、これ解決したんです。しかし、今これ解決しない。そういう問題を抱えておりますので、非常に技術的にも問題のところなんですね。こういうことに対して、どのように取り組んでもらえるのか、お伺いをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

先ほどの34号バイパス、市道中道線の交差点の取り扱いですけれども、議員おっしゃるように現道の高速のボックスの高さが2.5メートルしかありませんので、通常の、普通車両は可能ですけれども、農作業車とか大型機械によりますと当然とらないような状況でございます。そこら辺もありまして、何回となく国道事務所のほうとも打ち合わせの中で、その久津具のほうからの中道線の道路の迂回路については、つけかえを何とか、今の下げる話とかも議員のほうからも出ましたけれども、いろいろうちのほうでも相談をしているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

だから、久津具側から見て中道線だけで見れば、バイパスは来んでよかわけですよ。バ

イパスは必要なんですね。そして、今の2車線のときだったら平面交差で来ても、4車線になれば、中央分離帯ができれば行かれんごとなっですね。そういうことを考えて、将来の4車線を見て話をしていかにやいかんと。だから、こういうことのためにぜひとも地元にも詳しい方おられるか知りませんが、やっぱりこういうのを特化してとは言いませんけれども、専門的にやっぱりこういうところには考えを入れて、市の全知恵というですか、取り組んで、そして参らにやいかんと思うんですね。一番大きな、もう20年かかってやっとつけた予算が小さなことで壊れるかもしれない。前、買収はしたものの20年間でできなかったわけですからね。そういう危険性もはらんでいる中で、技術的にはここまでできるという専門的なこともどうしても必要だと思うんですね、市長ね。そういう対応をぜひともしていただきたいと思いますけど、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この専門的、技術的分野でありますと、私も事務の出身でもありますし、ただ、これはかなり説得能力、あるいは交渉能力が必要となるといったことで、私といたしましては、今のところの方針ですけれども、ぜひ技監を設けたいと思っております。ポストとして技監を設けることによって、これは今のところ部長級を想定しておりますけれども、技監を設けることによって、地元の難しい交渉、問題、さまざまところに地元に入って、そして技術的に集約をし、副市長並びに私に上げていただくといったことで、より技術的な分野に特化し強化をするといったことをぜひしていきたいというように思っております。今のところその設置については、これは議会とよく、また相談をいたしますけれども、7月に設置をしたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

先ほど川添川の話もですね、やっぱり技術者であって内容がわかってこうなっていくという話でなければ、変なところでもめるわけですよ。何も関係ないところを関係あるように言えばですね。例えば、家の庭の真ん中にパイルを打ちますよといったら、それはだれでも怒りますよね。いろんな間違いもするわけ、専門家じゃなければですね。例えばの話ですよ、今んとは。だから、技術者で本当にわかった人と話をすれば、先ほど中道線についても、今パチンコ屋の横ですかね、国道、今バイパスのあつですね、下を潜るやつが。そうすれば、例えば、水はけば、水ば出さにやいかん、ポンプはどうするとか、やっぱりそういう詳しい人じゃなからんぎ話がでない。しかし、詳しい人がおれば、あつ、あのときこうすればよかつたねという話があつてはですね、4車線になったときに間に合わないんですよ。ぜひと

もそれはお願いしたいと思います。

次に、自治体クラウドについてということで質問を出しておりましたけれども、これは自治体クラウド、これの利点というのはシステムの共同化によるコスト削減ですね。これは市長が一番得意な分野でしょうけれども、そのためには業務プロセスを標準化しなければならないと、こういうことで載っておりましたけれども、これは割り勘効果が生まれるということですね。割り勘効果、一緒にすることで安くなるということでしょう。これを質問する予定でしたけれども、その後勉強会のときに武雄市健康ポータルサイト構築運営事業ということが出たんですね。これは非常においしい話ですね。というのは、総事業費9,985万円、そのうち一般財源はわずかの42万円、全部国庫補助。びっくりしましたけどですね。その42万円についても広告収入というんでしょう。ここんたいどンドン持ってきてくださいね。この目的というのは、健康に関する情報提供の充実という話をしてお年寄りに対してインターネットの利活用をすとか、そういうものだと思いますね。事前審議になりますので、余り言いませんけれども、これでですね、新種のコンテンツ企画開発を、内容がどンドン出ていくと、これによっていろんなことも出ていくということですね。そういうところだと思うんですね。

それとですね、きのうときょうの新聞、きのうですね、私は横文字弱かし、こがんと弱かけんがなかなかですけども、きのうの佐賀新聞に載っていたのが、W i F i というんですか、これを佐賀のほうで全国初で取り組まれたと。よくわからんですけども、i P a d を持っていけば——i P a d でこの前出て、やっと名前ば覚えたぐらい。それを持っていけば、近くに行けばそこの商店の特徴でんなんでもわかるということでしょう。そこまで変わるとかと思うたんですね。

きょう何て書いてあったか。きょうまた書いてあつですね。電子申請利用10%、これは真反対ですよ。これは県で取り組まれた事業ですけども、利便性向上に必ずしもつながらなかった。それはニーズがあってやるわけですから、上で決めてから下に送ればね、何やという話ですよ。さらに、県民に理解してもらえるのかが観点が弱かったと。そして、佐賀県警やったでしょう、4億5,000万円かで買うたばってん、2年間ゼロで、利用者が。そして、それば廃止するとに1億円かかる。もうむちゃくちゃな話ばしよつですね。なぜこうなるのか。

私これはですね、ちょうど自治体クラウド、これもらって読んだとき、やっぱりこれだけすごく動く情報化の時代に、情報統括監、C I O というんですか、そりゃ市長も詳しかと思う。これはあそこじゃ宮口さん、あの方からいろいろ教えてもらったんですよ。あの方すごいですよ。しかし、あの方が例えばずっと将来それをすればいいですけど、やっぱり職員さんですから、ほかの部門も回らにゃいかん。専門職をやっぱり置くべきですよ。そしたら、この前ベトナムかどこかにシステムを売るとか言いよんさつたんですね。いろんなこと、発展

するためにはやっぱりそれを統括する。佐賀県におるとでしよう、C I Oは。ぜひ武雄版のC I Oをつくるべきだと思いますけれども、市長どのお考えでしようか、答弁求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

武雄市においても、今後ますますその需要というのは深くなるということで、私どもは例えば宮口であるとか、下村であるとか、本当に優秀な職員がいます。そういう中で、i P h o n e（現物を示す）なんですけれども、今、アプリとって、ここに例えば無料なり200円ぐらいで入れて、例えば、今そのアプリを開発しようと思っているのは、ここをぼんて押せば、例えば、110番、顔が出てきて。こっちの緑を押せば、これは真っ黒ですけど、例えば、緑を押せば119番。そして、この下の例えば青の部分を押せば、例えば、東京にお住まいの御家族につながるといったことがもうできるようになるんですね。これを武雄市で開発しようと思います。これを武雄市で開発をして、これアプリ料とって、一定70%入ってくるんですね。これを行革の一助にするのと同時に、これをぜひ武雄市民には無料です。しかし、これにはやはりアイデアはあります。あるんですが、技術的に落とし込む能力が私にはありませんので、ぜひ最高情報統括監を武雄市で導入をいたします。ただ、導入をするとな収が、今想定している方がいますけれども、1億円ぐらいかかるんですね。1億円。訴訟費用だけで1億2,000万円かかりますので、それは交渉しますけれども、無償で、武雄市のためにしていただくということで、今もし議会がお許しいただければ、その方向で進めたいと思っております。情報統括監については、技監と同じように7月1日にぜひ新設をしたいと思っておりますので、無償です、議員の皆さんたちの御理解と御支援をお願いしたいと、このように思っております。御指摘ありがとうございます。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

今、市長が言われたような、長い間私も考えていたのがタッチパネルみたいな、お年寄りのところに大きなハードを置いて、今のi P h o n eができないかということですね。何かブーブー、ぱっと見ればそこに用心せにゃいかんとか出るとかですね。やっぱりひとり暮らしのお年寄りのためにそういう防災版、名前は知りませんが、そういうのはやっぱり要るわけですね。そういう小さな電話みたいなのは読めませんから、大きいのを開発して、ハード面を開発してもらって、そしてやっていくと。そういうところに力のある人をですね、どうですか、いや、もうどんどんしていただきたいと思っております。趣旨はこっちじゃございませんので。

そしてもう1つは、保守点検料、これが7,827万1,000円保守点検料があるんですね、武雄市で。これに対してもですね、いろんな仕事でいろんなことを入れられると思いますけど、一括してですね、やっぱり外部から検査を見ると。そして、結果的に7,800万円余は下げて、ここで利潤を生み出すということも必要だと思うんですね。だから、先ほど市長が言われました無料でつくっていくと。やっぱり自治体も稼がなきゃいかんわけですね。と思いますけど、ぜひともこの保守点検についても安くなすような方法、外部の目ということもぜひとも考えていただきたいと思います。いいでしょうか。

それでは、時間も進んでまいりますので、次の質問に移りたいと思います。

次は、廃棄物処理に対する市の対応についてということでございます。

これは廃棄物と格好よう書いてありますけど、ごみですよ。ごみに対する市の対応ということございまして、結局は先ほど上野議員のほうからも一生懸命言っていただきました。これは排出者側からのいろんな悩み、苦勞なされておるんですね。それを処理する側がどのようにしていくかという話でございます。それは先ほど言いましたように、セメント資源化方式、これはトータルコスト183億円。とてもじゃないけど、この装置は入れるべきではない。将来を見据えたとき、大変なリスクを負う装置だということの説明しながら質問していきたいと思います。

まず最初に、ごみに対する認識を真っ白になしていただいて、一緒に問題点を考えていきたいと思えますね。ごみに対する処理過程。資料いいでしょうか。

つまり、廃棄物の処理過程というのは、原点に返って資源はリサイクル、つまり有価物、有用なものに対してはリサイクルしていくんですね。そして、どうしてもされないやつを可燃物と不燃物に分けていく。可燃物は、つまり燃やすですね。燃やせば主灰と飛灰と書いてありますね、これが大きくなりますね、主灰と飛灰。といいますのも、市長御案内かわからんですけど、主灰で、物をですね、ストーカ炉で燃やせば下に出るんですね、灰が。これが主灰ですよ。そして、上を飛んでいく、これを石灰とか活性炭で固めていくのが飛灰なんですね。この飛灰と主灰。その飛灰は有害性が非常に高い、ダイオキシンが高いし、鉛、六価クロム、カドミウム全部入っておるけんですね。ここに入っていくんですね。これは特別管理一般廃棄物なんですね。そしてもう1つ、可燃物であっても燃料化にするシステム、そういう方法もあります。RDF、これは固形にするやつですね。それと炭化方式があります。

これから私がずっと話していくのは主灰についてなんです。主灰の処分方式として、自分のところである、つまり圏内である——「けん」というのは広域圏の「圏」、あるいは佐賀県の「県」ですね。圏内である方式と、外へ持っていく。例えば、福岡県。この両方に分かれるんですね。そして、なおかつ埋立処分をしたり、スラグ化システム、埋め立てかスラグ化ですね。スラグ化システムというのは焼却灰を、灰を溶かすんですね。溶融したりガス化。ガス化溶融方式と言いますが、これは生ごみをですね、後で言いますけれども、1,300度

に上げて一遍で溶かしてスラグをつくる方式なんですね。これは非常に問題ありますけど、一応ガス化溶融方式とあります。そして、今言うように処分を外部へ委託する方法ですね。これはセメント原料化と、シャフト式に入れる、つまり精錬所に入れる方法もあるんですね。という分け方、このことは市長御理解いただけますでしょうか。次行ってよかですかね。——「うん」というサインが出ましたので、次に行きますけど。

つまり、自家処理と外部処理に分かれるんですね、今言うたとおりです。自家処理の中でごみをガス化溶融することによってスラグをつくる。これは溶かすんですね。もう1つは焼却灰を出して、その灰を溶かしてスラグをつくっていく。これは唐津でやっています、唐津市鎮西町。（現物を示す）こんなです、さらさらしとっ。もう砂よりかあれですもんね。そして、物すごくかたいですよ。これはこの前ですね、佐賀県環境クリーン財団という唐津にありますところに行って、井手業務課長さんにいろいろ話を聞いてきましたけれども、そこからもらってきた。これは溶融スラグで、私がいただいてきたのは21年5月21日です。これは真砂土よりも全く水を含まないと、この性質を覚えてください。水を含まない。だから、これが最高の問題になりますけれども、このスラグですね、これがスラグと言います。スラグをつくる方法。それと焼却灰を埋立処分する、杵藤クリーンセンターがしよっとと一緒にですね、埋立処分。この埋立処分というのは、処分場の確保ができれば一番いいですけども、これはなかなか難しい面もありますよということですね。都市ごみなんかは全くこういうものをしていないところはないということですね。これは後で話ししますが、これは処分場が問題です。

ガス化溶融方式は問題が多いということですが、このガス化溶融というのは、ごみを1,300度で溶かすということですが、システムというのはごみを蒸すわけですよ、酸素を与えずに。どろどろどろどろ。そして、木炭。木炭つくるときそがすすでしょう、熱してですね。木炭になれば火力が強くなるということはわかっですね。それと一緒に、焼成することによって炭素化する。そのときガスが出る。このガスと一緒に燃やせば、1,300度の温度が出るという考えなんです、考えは。それで平成8年に厚生省が、そうすればダイオキシンがなくなる、重金属はさっき言うたスラグに丸め込まれる。溶出しないので溶け出さんですね。それで、平成8年から厚生省はこれしかないと飛びついたのはこれなんです。しかし、これは厚生省の考えは間違っていなかったけれども、技術が追いつかなかったというのが今日の現状なんです。技術が。

じゃあ、どういう状況が起こっているかといいますと、これは新聞記事ですね。（新聞記事を示す）2007年12月23日の神戸新聞。それによりますと、兵庫県の高砂市、ここではですね、先ほど言いましたようにごみの溶融こそダイオキシン削減と重金属を出さないということで、やっぱり最高だということでやってきた。しかし、ここは2年間に27回の事故があつておる、高砂市。それで、議会としても百条委員会をつくってもめている。しかし、私が言

いたいのはそのじゃなくて次のところですけども、そういうことになれば、やっぱりもめるわけですね。ごみが悪かとか技術が悪かとかということ。ごみというのはあくまでもごみですよ、いろんなものまざっておるわけですね。だから、きれいなごみと一緒にであれば、さっき言うたように炭化してガスと一緒に燃えますけれども、燃え方が悪いということでダイオキシンが余計出て事故が起こっている。もめたときには市長、もめたときにはですね、必ず自治体とメーカーが争う形になる、このことを御理解いただけますでしょうか、答弁求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほどの御質問の中の御説明で理解をいたしました。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

そしたら用心しなければならないのは外部依存ですね、あくまで。焼却灰をセメント資源化などにした場合は、セメント企業の確保、保障根拠、これがちゃんとできなければならないということにつながっていくわけですね。

もう1つ整理しておきますけれども、実は昨年11月2日、杵藤クリーンセンターにある団体が行ったときに、クリーンセンターの所長さんが、伊万里が動き出せば、ここの灰は福岡県のほうへ持っていきますという話やったんですね。これは確かに聞かれております、11月2日ですよ。この灰の移動というのは、前漏水事故のときですね、たしか松尾初秋議員の提案で、もうシートばつくり直してまた漏水を起こすよりも、灰を熊本に持ち出したがましやなかかという話。当時10万トンで20億円ですよ、トン2万円で。今12万トンありますから24億円ですね。それを平気でそういうことを言われたというんですよ。それを調べてみますと、11月2日ですよ、広域圏で出されたことしの1月19日と25日のヒアリング結果とあるんです。これによりますと、こう書いてある。結局は灰の企業確保ということですね、セメント企業の確保ということ、確保しとかにやいかんということですね、やっぱり相談されたと思うんですね。そしたら、灰が出るのは五、六年後ですよ、灰が出るのは。だから、それまで待つことはできんと、企業は。だから、ここに書いてありますけれども、来年度からでも既存の施設から——最終処分場ですね——焼却灰を出して枠の確保を行えと、こがん話が来とる、ヒアリング。これ出たのが1月ですよ。しかし、言われたのが11月2日ですよ。水面下で話が進んどっじゃなかですか、これは。

きのう言われた言葉は、セメント資源化を決定していると言われたですね、決めている。セメント資源化、山口良広さんの答弁にあったですね、セメント資源化を選定しているんだ

と言われたでしょう。何で議会も知らんとにそういうのが先進むんですか、答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

昨日、山口議員のほうにお答えしましたその処理方法についてセメント原料化が選定をされていると。決定ではありませんと。1次、2次選定項目ありますけれども、現在のところ選定をされておりますと申し上げたところでございます。

〔23番「違う。議事録起こしましょうか。違うでしょう」〕

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

私もちゃんときのう聞いて、メモしとっですよ。——どうしようか、これ続けていいですけども、12時5分前、あと5分になりましたが、いかがいたしましょうか、議長さん。

じゃあ、これ精査してくださいよ。

○議長（牟田勝浩君）

質問の途中ですけれども、議事の都合上、午後1時20分まで休憩いたします。

休 憩 11時55分

再 開 13時19分

○議長（牟田勝浩君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

昨日の答弁では誤解を招くような発言をして申しわけありませんでした。まだ決定ではありません。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

決まっていないということ。では、質問いたしますけれども、実は基本理念について聞いていきたくわけですね。つまり、佐賀県西部広域環境組合での基本理念として、こういうことをうたってあります。

「国は、これまでの消費型社会から循環型社会へとシフトを変えてきた。また、地球温暖化対策の観点からは京都議定書目標達成計画が閣議決定されたところであり、本地域においても温室効果ガスの一つである二酸化炭素の排出量が少ない低炭素社会を目指していくことが必要です。このことから本計画では3R運動」、先ほど部長言われましたようにですね。

「排出抑制、再使用、再生利用を推進していくことで、焼却量や直接埋立量を減量させて温室効果ガスの発生量を低減させます。また、化石資源」、これは燃料ですね。「の使用量の抑制を図るため、広域処理による効率的な資源・エネルギー回収が可能なごみの適正処理を推進していくこととします。」。

基本理念をですね、つまり地球温暖化防止、再生利用、さらには埋立量の減量ですね。この3つをうたってあって、さらに広域処理、これ広域処理をうたっておりますけれども、この広域処理というのは、今構成している広域の団体なのかね。それとも、先ほど出ました福岡県へ灰を持っていくという話もありますので、福岡県を踏まえた広域処理という考えなのか、このことについて佐賀西部広域環境組合の理念について広域処理とは何ぞやということをお伺いいたしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

今の西部環境組合の構成しております4市5町の分の施設でございます。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

そうとりやすいですけど、実際はこう書いてあるんですね。広域処理による効率的な資源、そこにつながってっす。エネルギー回収。だから既に、先ほど言ったセメント化と決めておるとやなかか、当初から持ってきているんじゃないかという意味ですね。まあ、わかりました。そういうことじゃないですね。

一方、佐賀クリーンパーク、これは市長、御存じですか。唐津市鎮西町ですね。ここにこの前行ってきました。今度、広域圏の議員になささせていただいたので、勉強しに行ってきました。井手さんという業務課長にいろいろ勉強させていただいたんですけども、ここの基本理念は少し違うんですよ。まず、その前に市長は御案内と思います。ここは公共関与型の施設ですよ。それで役員さんといいますと、役員名簿は、理事長は古川知事さんですね。そして、副理事長に商工会議所連合会会長指山さん、それから副理事長が2人おって、あと1人は唐津の市長さんなんです。そして、専務理事に佐賀県くらし環境本部副本部長さんが入っておる。あとはずっと理事ですよ。その理事で、佐賀県商工連合会会長、佐賀県中小企業団体中央会会長、佐賀県経営者協議会顧問、佐賀県建設業協会会長、佐賀県医師会会長、これは今度池田さんですけど、これは6月1日にかわったんですね、ちょうどこの資料をもらったときですけども、それまで沖田さんでした。それから、農業協同組合中央会の会長さん。さらには玄海漁連の会長、有明漁連の組合長。それから、産業廃棄物協会の会長さん、これは石丸会長さんですもんね、県議さん。それから、佐賀市長、鳥栖市長、管理者

の伊万里市長も入っとんさっです、ここの中には。伊万里市長ですね。それから鹿島市長、神埼市長、小城市長、それに江北町長さんですね。そして、佐賀共栄銀行の頭取、税理士、こういう方たちが役員なんですね。

ここの基本的な理念というのは、ここにうたってありますけれども、「県内では民間による新たな廃棄物処理施設整備が進まない一方、県外では、産業廃棄物の受入制限が強化され」、ここは一般廃棄物も扱っておるとですよ。だから産業廃棄物と書いてありますが、一般廃棄物も県外では受け入れせんごとなりよると書いちゃっですね。「県外での処理が厳しい情勢となりつつある中、廃棄物の県内処理を推進し」、これは宮崎なんか特にひどかですね。「また、廃棄物の適正処理体制や不法投棄及び不適正処理を防止するための廃棄物の最終的受け皿となる施設を確保するため、安全・安心」、こっちですね。「に十分配慮した高度な処理技術」、先ほどガス熔融施設も言いましたね。「及び公害防止技術を備えた公共関与による」、いいですか、「モデル的、かつ先導的な廃棄物処理施設を整備、運営するとともに、廃棄物の適正処理やリサイクルについて、啓発事業などに取り組むことにより、本県のすぐれた自然環境や県民の環境を保全しつつ、かつ」云々を目的としていますと、設立されますと、こういう状態なんですね。

ここの炉の形式、これはどうなっているかといいますと、次のパネルをお願いします。

この唐津の施設というのは、「この施設は、焼却灰等を高温処理」、つまり溶かすことで「ダイオキシン類を分解し、さらにスラグ化」、さっき言ったスラグ、重金属を押し込める役があるんですね。「による重金属類の溶出防止対策をとれる高温熱分解ガス化燃焼型キルン式高温熔融処理方式」、ちょっと長いですけども、これ2つに分けてあるんですね。さっき説明したですね。燃焼で灰をつくって、その灰を高温処理するということでもんね。

「を採用し、安全で信頼性の高い高度な処理技術や公害防止技術を備えた廃棄物の処理施設としては、最先端の設備を備えたモデル的な廃棄物処理施設です。」モデル的な廃棄物処理施設が唐津にあるんですよ。

下に書いてあるのはストーカ方式、これは火格子方式でしょう。キルン方式、回転して燃やしていく。それから、シャフト式、これは精錬所など、新日鉄など一遍にごみの選別せんで真っすぐ溶かしてあるんですね、そういうのが上げられますということですね。こういう設備を備えているというんですね、唐津です。

だから、この見比べですけども、結局、佐賀西部が言われていることは、佐賀西部は結局温暖化防止やったですね。再生利用、処分量を減らす、これが主眼やったですね。しかし、ごみ処理センターとって考えた場合は、もちろんそれも大事でしょうけれども、安全・安心・安定化、そして圏内処理、これが住民目線だと思っんですね。これが必須条件になっていかなければならないと思いますけど、安全・安心・安定化、地球温暖化も大事でしょうけれども、安全・安心のほうに力を入れるべきだと思いますけれども、その点についてはどの

ようにお考えでしょうか、お伺いをいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この施設の主目的を考えた場合には、やはり安全・安心というのが第一義に来るべきだというふうに認識をしております。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

つまり、理念で選択が変わるとですよ、どこに重点を置くかにですね。

次の資料をお願いします。

つまり、検討部会で先ほど選定したと言われましたか知りませんが、検討部会で評価されている基準と項目がありますね。佐賀県西部広域環境組合では、8つの項目で優劣をつけてあるとです。1番、公害防止性、2番、温暖化負荷、3番、最終処分負荷、4番、資源・エネルギー負荷、そして、安定・安全稼働、それから処理能力と適応性、それから施設規模の適応性、トータルコスト、こういうふうに書いてあるんですね。しかし、公害防止性、これは必須条件ですね、これが合致しとらんぎ、まず選別されんですね。それと、6番の処理能力と適応性、処理能力のなかとは、はなからだめでしょう、俎上に上がってこない。7番目の施設規模の適応性、適応できなかつたら上がってこないですね。つまり、この3つについてはどれも満点なんですよ。満点でなければ、この評価の前の段階ですね。そしたら、佐賀西部でやられたことは温暖化負荷、最終処分負荷、そしてエネルギー負荷と安定・安全ですね。この処分場負荷もあれですよ。これは先ほど上野議員もおっしゃったように、今全国的には最終処分場が逼迫しているので、なるだけ減らそうという、そういう考えですね。全国的な考え。しかし、じゃあ、佐賀西部にとって、これは絶対条件かといいますと、場所がとれれば負荷は変わるんですね、大きくね。つまり、最終処分場がとれるときととれないときでは判断が大きく変わるんです、この項目はですね。

一方、先ほど唐津の話をしましたけれども、住民目線で考えたときには右側の項目ですよ。まず、安全・安心・安定。安全・安心、やっぱりごみ処理施設やったらですね、これが半分以上なからんぎだめですね。重点配分せにやいかん。つまり、やっぱりこれがすべてですよ、本当は。少しお金がかかっても安全・安心・安定するほうに力を入れにやいかんということですね。だから、重点配分はこっちに持ってくるんですね。それから、再資源化に配分、これも同じ点数だったら、より再資源化のあったほうがいいでしょうという意味ですね。それから、同じ状態であつたら、より地球温暖化に寄与できると。そして、トータルコストが安い、こういう順番になるべきなんですね。しかし、それが温暖化防止、再資源、ここに

物すごく重きを置いてある。つまり、セメント資源化方式以上な評価点だとしか言わざるを得ないんですね、このことについて市長はどのように思われるか答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かにあれですね、その公害防止性が10点でずっと均一に10点というのは、ちょっといかななものかなというのは思いますね。

それともう1つが加えるに、やはり自分たちのごみというのは自分たちの地域で行うというのが基本だと思うんですね。ごみだからといって圏外、これは佐賀県なのか広域圏なのかは別にして、そこに持っていくということが果たして住民目線として本当にそれがいいのかということは思いますので、この出された配分が適切かどうかはちょっと議論の余地はありますが、この今までの均一の10点というのはちょっとおかしいんじゃないかなというふうに思います。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

今、圏内処理というのは排出者責任なんですよ、本当は。そういうことを考えれば当然ですけれども、先ほど言いました温暖化防止、再生利用、埋立処分量を減らす。この3つのうち、埋立処分量を減らすは、考え方によってはこの佐賀西部広域圏の中で、もし受け入れてもらえればですね、最終処分場が一番安いし、一番いい方法だと思うんですね、最終処分場を大きくつくることは。処分量を減らすじゃなくて。都市ごみだったら確かに減らさなければならぬですけども、佐賀西部で考えたときには、やっぱり処分地というのは、もっともっと考えていいと思うんですね。この処分地を拡大することは絶対できないような今の状況なのかどうなのか、そこは部長から結構ですけども、答弁求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私はこの西部の広域圏の副管理者でありますので、その立場から申し上げますと、地元——地元なんですね、もう議員御案内のとおり。ですので、地元の、そこまで例えば何ヘクターはどうするとかというところは話は行っていないというふうに承知しておりますので、いずれにしても、それは地元の合意、同意がとれるか否かだというふうに認識をしております。詰めた議論はまだしていません。

○議長（牟田勝浩君）

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

だから、非常に地球全体といいますか、日本全体といいますか、そこで今確かに処分場が逼迫していることは事実ですね。それで、セメント資源化方式ですけども、この研究ですね。これは麻生セメント株式会社、株式会社麻生、九州大学の島岡教授ですね、この方たちがされておるのはこうなんですよ、福岡県。都市ごみ焼却灰のセメント減量化技術の開発と書いてありますね。なぜセメント減量化をするかということです、ここは。この資料によりますとですね。それは、名前はこうですよ。焼却残渣の資源化研究会。つまり、焼却残渣をどこに持っていくかという研究会なんですよ、ここは。これがセメント資源化の原点ですからね。

初めにとかで一番最初書いてあるのは、廃棄物の埋立容量が逼迫していると、埋め立てる場所がですね。それが初めですよ。そして、都市ごみは将来的にはふえていくと、ごみはふえる、残渣はふえるけど、埋立処分地は少ないというのがこの研究ですよ。だからどうするかというのを今非常に考えておられるんですね。だから、福岡県下においては、福岡県で事業所、それから学者やけん九大ですかね、学者。そして、役所、福岡市一緒になってこの灰をどうしようかとするのが、このセメント資源化方式なんです。これで問題があっおるのが、資源化の中で一番問題になっているのが脱塩ですよ、市長。塩の濃度が非常に高いということですね、焼却灰は。今、火力発電所から石炭灰を受けていますけど、それは1,000 p p mです。しかし、普通の埋立地は1%から15%、パーセントはどがんかねて、その10倍ですね。1万 p p mですね。だから、脱塩で非常に困っているというのがですね、今の状態。

これはこの前、建設委員会で福岡のほうに勉強しに行きました。三菱マテリアルと宇部セメントですね。そしたら、やっぱり脱塩装置ですよ。水洗い。この水洗いは大量の水を使うし、結局はその水の処理をせにゃいかんとですよ。この塩もいろいろあって、塩化物が多いために難溶解性というんですかね、溶けにくい塩もいっぱいあつとですね。そういう研究の中からですね、かぎとなるのはやっぱり脱塩。それから貯留期間、これは自然で塩を飛ばすですね。それと経済性、この3つば言われた。その報告がですね——その報告の前、これは市長ぜひ覚えてほしかとばってんね。

この報告書の中に、管理型埋立地に埋める際の受け入れ費用は、例えば、関西の同規模自治体である兵庫県の場合の2分の1か3分の1、はるかに安いと。全国で見ても、管理型埋立地が安い。これは地方自治体としては非常に好ましい状態である。やっぱり安かたがよかわけでしょう。非常に好ましい状態である、「が」てついつつです、次。非常に好ましい状態であるが、これを長期にわたり、このような状態ですね、これを長期にわたり継続させることは全国の情勢から見て難しい。ここだけです。全国から見たらやっぱり処分量を減らそ

うという考えなんですよ。だから、それが間違いじゃないですけども、すぐ武雄に当てはまるかということなんですね。

これは研究されたとがですね、焼却残渣循環資源化研究会、平成13年7月16日から平成15年3月31日、ほんなこの前ですね、会長が九州大学の島岡教授ですね、それに麻生セメント、株式会社麻生云々が入りつつですね。そういう状況なんですよ。

それともう1つ、資源化と言うけれども、結局は残渣処理というのが大きいと思うんですね。だから、今度焼却炉に使うセメント資源化方式が資源をより解消するんだということとは少し趣旨が違うと思いますけれども、このことについてどう思われますか。そのセメント資源化方式が資源を使うんだということと、残渣処理ということとどっちが重きにあると思われるでしょうか。いや、わからんならわからんでいいですけども。

○議長（牟田勝浩君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

ちょっとどちらかということを行うことはできません。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

それがわからなければ選定はできないですよ。まあ、いいです。悪口言いませんけど。相手は学者ですからですね、闘う相手は。

だから、結局ですね、資源化方式と言うけれども、だれでも誤解するのは、例えば、繁昌にある灰をそのまま持って行ってね、それでセメントをつくるのであれば、それは資源化方式かもわかりません。繁昌に置いてある灰のうち、きれいな灰ですもんね、主灰。飛灰のほうは持っていかれんけん。今は混合ごみですけども、主灰はとらないんですよ、原則。塩素が高過ぎるため。重金属含んでいるから。主灰を、それもしかもし水洗いしてですよ、三菱マテリアルは水洗いして持ってこいですよ。その水はまた処理せにゃいかんでしょ。そして、持っていった灰が、今度は1,450度で回っているロータリーキルンの中に入れておきましょう。そして焼いて、粘土と一緒に出来てくるから使えると。私はそのとき聞いてはならんことを聞いたんですけども、じゃあ、重金属どこ行くですかと聞いた。重金属。答えは言いませんけど、どっかに捨てるんですよ。

だからですね、さらなる問題として、1月19日、申し入れ書が来とつですね。つまり、走りますけど、平成22年1月19日に西部環境組合の議長の中村議長から、管理者に申し入れ書が来ている。それは、ごみ処理広域化に係る新ごみ処理システムの選定に関する意見書で来ておるですね。これは新ごみ処理システム選定作業が佳境に入っている。決定はしていない、選定もしていない。佳境に入っている。また、21年11月19日及び22年1月12日は、組合議会

議員協議会を開催した。そして、各議員からいろんな意見が出たと。議事録を読ませていただきました。びっくりするような内容ですね。

まず申し入れ書ですけども——次の資料をお願いします。

「セメント原料化システム」は焼却灰の受け入れ先であるセメント関連企業の確保が出来ない場合、システムそのものが成り立たないという「外部依存性」が極めて高いシステムであり、外部依存そのものですよね。「セメント関連企業の確保が今後の最重要事項になる。従って、選定するに際しては長期にわたって」、15年、20年。「安定的な受け入れ先の確保」、わざわざこれのでけんけんが申し入れ書の来ととですね、議会から。「を確実に実現するための方策を講じた上で」、長期にわたる、つまりそれを保障せにゃいかん。保障する根拠が要る、なお担保が要る。それを講じた上で今後の事業を進めていけというて組合のほうから管理者のほうに申し入れ書が行っていますけど、このことは御存じですか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

管理者あてでありますので、知りませんでした。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

私はやっぱり長期にわたって外部に出すんであればね、市長ね。長期にわたって受けてくれる保障、根拠。先ほど宮崎の話をしたですね、せんやったですかね。昔ですね、覚えている方はいらっしゃると思いますけれども、前、生ごみというのはプレスしよったです、二又で。そして金網で包んで、そしてアスファルトにつけて1メートル真四角でつくってね、当時メーカーは何て言いよったかというぎ、これはどがんでん重宝がらるっけん、石垣でん使わるって、こがん言いよったです。ところがどっこい、どこも取り手なかですよ。それで仕方なく宮崎に出しよったんです。当時、運送だけで1億円ぐらいあったですかね。しかし、宮崎県は最終処分場の多かつたけん、あちこち受けてくれよった。しかし、宮崎県民の感情として、やっぱり「うん」て言わんですよ。それでだんだん絞ってきたという経緯があるんですね。

これはここで言うたら怒るっかわからんですけど、今、伊万里と一緒に仕事をしているから伊万里のごみを武雄に持ってきてもだれも言わんか知らんけれども、もしつき合いをしよらんでですよ、まあ、そういうことはないと思いますけどね、伊万里のごみを武雄に入れさせてくれと言ったら、武雄のみんなが「うん」と言うとは限らんですよ。そういうもんなんですよ、圈内ごみ。だから、クリーンパークでは圈内処理をうたってある、古川知事はですね。

だから、先ほど言うたそういう状態の中で外部依存するわけですから、やっぱりはっきりした根拠がなければ、組合からそう言われるのであれば、やっぱり資源化システムは反対と言うべきなんですね。私はそう思うんですけども、ここで外部依存の問題点ということで私なりに整理してきましたけれども、だれでもわかることですが。次よかですか。

つまり、民間業者へ最終処分処理を依存した場合の問題点ということで私なりにまとめました。当たり前の話。

引き取り業者が引き取りを中止した場合。これはその時点から灰の処理がでけんごとなんです。当たり前の話。

引き取り業者が処理単価の値上げを言ってきたとき。これは自治体が言われるままに処理単価の値上げに応じなければならんです。

それから、県外業者へ処理を委託する場合は、都道府県と事前協議ばせんばいかなんです。そしたら、大いにどうぞとはなかなか言葉に出てこないと思うんですね。そういう搬入許可が必要だし、将来にわたって毎年更新の許可が、大体1年に1回ということで更新の許可が必要になってきます。

それともう1つ、災害ごみですよ。災害が起こったとき、いろんなまざったとを燃やすんです。これは異物混入でセメント会社が引き受けん。そしてもう1つは、災害ごみは塩素濃度が物すごく高いので、このままでは引き受けてくれん。そういう状況なんですね。ガラス、陶器類、異物が入っている。エックス線検査と書いていますけれども、これはエックス線物質解析検査装置がですね、三菱マテリア行っただ、中央制御室にぼとっとあつとです。絶えず物質を検査しよる。なぜか。J I S規格ですからね。一回触れたらセメント業界倒れますからね。だから、それだけ一生懸命しているけれども、そういう状態があると、問題点がですね。

また、セメント業界の情勢ですけれども、これ新聞ですけれども、実は21年の12月8日の新聞ですね。佐賀建設新聞、これによりますとセメント出荷量の減少続くと。来年度は4,000万トン割れの可能性も。その横にですね、廃棄物の受け入れにも支障の懸念と書いてある。今請け負っても、あと請けんですよと書いてある。それは古タイヤなんか助燃剤で使いよるけどですね、そういうのをとらんとに灰なんかましてとらんです。中身的には建設投資の減少に伴い、国内のセメント出荷の減少が続いている。2009年上期には前年同期比14%、オイルショック期を上回る過去最大の減少幅を記録した。新政権による公共事業の大幅な削減で、10年には4,000万トンを割り、45年ぶりに1965年代初期の水準に落ち込む可能性も出ている。今後セメントの需要減が一層進めば、受け入れ先に支障が発生する可能性が非常に高い、こういう時代背景もあるわけですね。つまり、社会性に左右されるんですね、外部依存は特に。

だから、組合もですね、市長ね。やっぱり大きなリスクを背負うということで申し入れ書

が入っておるですね。やっぱり外部依存でなければまだいいかわからん。福岡みたいに福岡県の中でセメント企業があればね。しかし、外部依存に頼るこういう方向というのは大きなリスクを伴いますので、やっぱり見直すべきだと思うんですね。どのようにお考えか、答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

るる御質問の中の御意見を聞いておまして、やっぱり外部依存というのは問題があるなと思いました。これしっかり議論の中で修正をする必要があるという認識に至っております。しっかり議論をしたいというふうに思います。

○議長（牟田勝浩君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

先ほど言いましたように、脱塩。塩を取るのに非常にやっぱり難しかったですね。これは市長なんか一番御案内と思いますけれども、塩は一番機械を壊すんですよ。塩は何にでも化合物になっていくということで非常に難しいということで、実は塩は要らんものだなと思ったんですけれども、プロジェクト名がですね、これは福岡ですけれども、焼却残渣の脱塩促進と資源化のための環境維持型技術の開発ということで、会長が花島先生ですよ。花島先生で聞いたことあんねて見たぎ、私は杵藤広域圏で漏水事故のとき、一生懸命議論しながら一生懸命習った福大の教授ですよ。その方がやっぱり脱塩処理について、何とか塩を外せば、そのセメント資源にも使えるということで今一緒に研究されているんですね。この状態が今あって、やはり除塩に多額の費用がかかるというのが現実ですよ。

2001年の昨年1月20日の宮崎日々新聞、これは宮崎新聞に載ったんですけども、内容はこうですよ。エコプラザ破損、これは脱塩処理しよったところですね。脱塩処理が不調だと、塩化物イオン濃度を規定の――当たり前に下げることができなかったということが大々的に宮崎日々新聞に載っているんですね。そのときに必ず言われる、さっきと一緒。業者の技術が悪いのか、出したごみが悪いのか。たまたま悪いことに、ここは台風のとき災害ごみば入れとっとですよ。それで塩素が高くなったということで、今言うようにエコプラザが動かんようになった。その結果、新たな脱塩対策として、下水道へ落とし込むと。下水道案、これが維持管理費を含めて13億8,000万円。もう1つは県外の精錬所、精錬所というのはごみを一遍に溶かすところですかね。精錬所へ排出するときは34億8,000万円。それから、能力の高い脱塩装置、一回ちゃんをつくっとですよ。それでも処理し切らんけん、またつくするのにこれをすれば40億6,000万円。だから、完全に仕上がっているのであればいいけれども、今途中だということですね、平成13年のころの研究ですからね。平成8年にこれが一

番いいと言われたガス溶融方式ですね。それも結果的には理論は正しかったけれども、技術が伴わんと。今度も理論は正しいですよ。しかし、技術的にはどうかと思うんですね。そういう話がされておるんですね。

それから、最初に戻りますけれども、今選定されたていうことよね。ごみ処理システムの選定における現在までの検討経過ということで、これは佐賀西部広域圏が出された資料ですよ。これによりますと、先ほど理念で変わると言ったですね、選択方式が。この書類によりますと、さっきのでいいですけども、埋め立てシステムで三角があるのが最終処分負荷——これ持っとんさっですか、あればよろしくをお願いします。

埋立処分システムで最終処分負荷が三角、資源・エネルギー負荷が丸なんですね。あとはすべて丸ですよ。

この最終処分負荷というのはどういうことかといいますと、さっき言いましたように最終処分量が最も多くなるんだと。最終処分量が最も多くなるから三角だということですね。それは地球全体じゃなかった、日本全体を見たら、確かに最終処分負荷は処分量が多かったら三角かもしれんですね。しかし、先ほどから何回も申しますように、佐賀西部広域圏内で、もし受け入れてくれるところがあれば、これは二段丸になるんですね。三角じゃない。日本全体から見たら三角ですよ。

それと次の資源・エネルギー負荷、これは再生の資源が少なくなるとですね。じゃあ、どういうことかといいますと、これも当初に言いましたが、ごみを有価物質と分ける。分けてどうしようもないのを燃やす。燃やすときには電気エネルギーをとるんですよ、電気に変えますから。その残りが灰になっていく。この灰をですよ、この灰を多量の水を使って、その水も処理せにゃいかん。そして、1,450度のキルンの中に入れてにゃいかん。それが果たして資源化と言えるかと。だから、資源量が少ないと言えるかと、丸書いてあるですね。

そしてもう1つは、セメント資源化方式の安定・安全のところに丸書いてあるですね。安定しているかと、安定しとらんですよ。これこそ三角ですよ。先を考えればですね。そういう決め方を失礼ながらされておる。今度私は広域圏議員になっていろいろ調べた結果ですから間違いないと。確かめてはいないですけどね。

議事録をさらに見ますと、やっぱりいつも言われているのが——これだけ言うとかにゃいかんやったですね。「スラグ化は多くの課題があり、最終処分量を少なくし、資源化を図る」、これがよかて書いちゃっですね。それはセメント資源化しかないと書いてある。

しかし、「スラグ化は多くの課題があり」、これ違うでしょう。ガス溶融化は問題がある。しかし、唐津は知事初めモデル地区と言っていますから、スラグに問題はないんですよ。これごまかしですね。

それから、「最終処分量を少なくし」、それは多いよりか少ないがいいかもわからん。しかし、これは絶対条件じゃないわけですね。処分場があれば、これは問題がない。

「資源化を図る」、さっき言うたのが資源化になるかという話ですね。だから、そういうことがあるから、それでもなおかつ、これをみんな良としても、この業者決定の選択のときは、やっぱり担保される、選考せんばいかんですよと言っています。

それで、時間の都合がありますので、これを最初に言っておきますけれども、一番最後ですね。そういうことを考えれば、長期にわたって安全・安心・安定処理を確保するためには、さらには委託費の高額化の危険性、相手の言われるままですからね。それから、ますます厳しくなるとされる日々情勢、こういうことを考えた場合、もし建設用地が確保できて、なおかつ周辺の皆さんの同意が得られれば、将来に懸念を残すよりも組合自身の最終処分場を建設することが最も適当だと。そのやり方も、当初に戻りますけれども、焼却灰を埋めるもよし、あるいはまた、それをスラグ化して灰を――分けてすればいいわけですから、灰を溶かしてスラグ化して、それを処分場に埋めていいわけですよ。しかし、組合でこれが問題になっているのが、スラグ化システムが問題がある。セメント業界問題がある。なぜか。公共事業に同じく使うからと書いてあります。しかし、そのスラグは使わなくていいわけですね。セメントは使わにゃいかんわけですよ。これを同列に並べてあるんですね。議事録を読めば。

だから、そういう多大な課題を持ちますので、ぜひともここは思い切って修正を思わなければ、私自身、そういう組合であれば離脱も視野に入れてでもこの問題に対しては徹底的にやっていくべきと思いますけれども、市長はどのようにお考えか、最後に答弁を求めます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

非常に論理的な御説明で、私も考えていたことが一部自分も修正を迫られています。これからは佐賀県西部の広域圏の組合のほうで、修正の方向で議論をする必要があるというふうに認識をしました。

以上です。

〔23番「ありがとうございました。終わります」〕

○議長（牟田勝浩君）

以上で23番黒岩議員の質問を終了させていただきます。